

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム和やか～なごやか～

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100111		
法人名	株式会社介護いわて		
事業所名	グループホーム和やか～なごやか～		
所在地	〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町大字一方井第4地割10番地		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ禍で外出行事や地域行事への参加等は出来ていません。外出が思ったように出来ない分、普段と違う食事を定期的に提供しています。その他に畑で採れた野菜で漬物を作ったり、近隣住民から頂いた野菜で食事を作ったりと作業に取り入れています。 体調管理は主治医や訪問看護、薬剤師と上手く連携が取れていると思います。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田畑に囲まれ自然環境に恵まれた地域に立地しているが、周辺には民家も点在しており、地域との交流を大切にしている。現在は、コロナ禍にあり地域行事への参加を控えているが、地域の方から野菜の苗や収穫した野菜をいただくことがあるほか、地域で月1回開催している「いきいきサロン」に職員を講師として派遣し認知症の話を行うなど、地域との交流を継続できるように努めている。また、事業所の理念である「笑顔」を引き出すように日常のケアに取り組んでいて、特に食事については、利用者の希望を取り入れた献立にするほか、外食に出かけることができない状況にあるので、手づくり弁当の日を月2回設定し利用者と一緒に楽しみながら作っている。重度化や終末期の対応については、利用者や家族への丁寧な説明を行い、かかりつけ医や協力医、訪問看護ステーション等と連携を図りながら、利用者や家族の意向を尊重できるように取り組んでいる。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を「笑顔」としている。職員は常に意識しながら取り組んでいる。	職員で話し合っ決めて事業所の理念「笑顔」を、月1回開催しているミーティングで唱和して、日々のケアの中で実践につなげるように努めている。利用者と笑顔で話したり、食事が楽しくなるように工夫したり、入浴時にはゆったりとした中で昔の話を聞いたりして、利用者の笑顔を引き出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナ禍で地域住民とは満足に交流は出来ていないが、地域のいきいきサロンで認知症についてなどの講師を引き受けている。	現在はコロナ禍で地域との交流は難しい状況にあるが、自治会に加入していて、地域とのつながりがあり、地域の人たちから漬物や野菜などの差し入れをいただくこともある。また、地域で月1回開催される介護予防のための「いきいきサロン」に職員が参加して、認知症の話を行うなど、地域との交流を継続できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中で、地域の方々に認知症の理解や支援方法をどのように伝えていけば良いか、考えているところである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も書面開催のため、推進委員の方々に資料を送付し意見を募っている。数名の方々からは意見を頂いている。	現在はコロナ禍により、参集しての運営推進会議の開催は控えており、2か月に1回の書面での開催としている。利用者の状況や行事、事故報告を書面で行っているが、返信用封筒を同封して意見をいただけるようにしており、委員からは労いの言葉や利用者の転倒防止などへの意見をいただいている。	運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター、行政、自治会長、民生児童委員、地域住民代表等となっていますが、さらに利用者や家族もメンバーに加えて、幅広く意見をいただけるよう取り組んでいくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は地域ケア会議も中止のなったため、十分な意見交換は出来ていない。	コロナ禍により、地域ケア会議は開催とはならなかったが、町役場担当課や地域包括支援センターの職員とは直接相談できる関係となっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二か月に一度、事業所ミーティングで身体拘束委員会を開き、職員には現状を周知している。事業所ミーティングに参加出来ない職員には閲覧できるように議事録も作成している。	全職員が委員となっている身体拘束委員会を2か月に1回、事業所ミーティング時に開催し、身体拘束についての研修も行っている。利用者が外出しそうなときは、止めるのではなく、一緒に散歩したりして様子を見守っている。スピーチロックについては、介護の場面で起こることが多いので、そのような言葉を聞いた時に、管理者等が指導するようにしている。家族に説明し了解を得たうえで転倒予防のためのセンサーを設置し、職員で状況を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがある。虐待しないケアを目指し注意を払っている。年に一度は職員対象の研修会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度を学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に理解、納得して頂けるよう丁寧に時間を取って説明している。説明の際は可能な限り管理者や計画作成担当者など複数名で対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱は設置しているが、家族や外部からの投書はないため、面会時等に意見を聞くよう取り組んでいる。	家族が利用者に会いに来所した際に、職員が家族に話しかけ、運営に関する意見、要望を聞くように努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本年度の事業所会議は、出勤している職員のみで開催しているが、不定期ではあるが全員参加の事業所会議を開催している。	月1回事業所ミーティングを開催しているほか、必要に応じて全職員参加の事業所会議も開催し、職員から運営に関する意見を聞いている。職員の意見には、滑りやすい床や段差の改善、Wi-Fiをつながりやすくしてリモート面談ができるようになることなど、利用者支援や事業所の環境や施設に関するものが多く、できることから具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二度、人事考課を取り入れている。また、各自が向上心を持って働けるよう資格手当や資格取得のための補助も行い、資格取得をサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や力量などを考慮し、研修を受講してもらった。また、毎月施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協会に加入しているが、コロナ渦のため交流会や勉強会は中止となっており、交流できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをメインとしたケアを心掛け、不安な事、困っていることを話せるような環境作りと対応に努めている。必要時はセンター方式のアセスメントを行い、本人の思いを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは聞くことを重視し、なんでも話せる環境作りと対応を心掛けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅でのケアマネや家族、主治医など可能な限り複数から情報を得て適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯、掃除など、できることは少しでも職員と一緒にできるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話などでご本人の状態を伝えながらご家族の意向を伺い、必要に応じ面会(窓越し)を促している。遠方の方やなかなか訪問出来ない方はテレビ電話を使用し、オンライン面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所で積極的に連絡を取り関係性が途絶えないようには取り組めてはいない。コロナ渦で馴染みの方が訪ねてくることもなかった。	コロナ禍にあり、友人や近隣住民、ボランティアが訪れることは控えていただいているが、訪問理容師とは馴染みの関係となっている。家族とは、病院受診時に会える利用者もいるが、窓越しでの面会やオンラインでの面会、電話での会話を取り持ちたりしている。利用者一人一人の様子を「なごやか便り」として、写真を添えて2ヵ月に1回家族にお知らせし、関係の継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、利用者同士がトラブルなく楽しく過ごせるように職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に看取り対応を行った際は自宅を訪問するなどして、ご家族の思いを伺っている。		

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントシステム「ライフサポートワーク」の暮らしまとめシートの活用、本人への聞き取り、日常会話などから、希望・要望・意向の把握に努めている。	ほとんどの利用者が自分の思いや意向を表現することができるので、日常の会話の中から思いや意向を把握している。また、介護計画の見直しの際にも利用者の意向を聞き取り、把握した意向を職員で話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りや日常会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で心身状態の観察、作業の提供で、できることの発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、担当職員を中心としたカンファレンスやモニタリングを行い、本人の思いを汲んだ介護計画の作成に努めている。	入居時に、利用者と家族の意向を確認し、1、2か月程度の暫定の介護計画を作成し、生活に慣れた段階で本計画を作成している。その後、3か月ごとに、担当者のモニタリングを踏まえ、利用者も参加したケアカンファレンスを行った上で計画を見直している。家族が来所した際や、職員が家族を訪問したり、郵送したりして、家族の了解をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートで情報共有できるように具体的に記録するように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や訪問看護の対応など、急な依頼にも対応できるように取り組んでいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理美容院を継続して利用していたが、コロナ渦のため外出は出来ていない。窓越し面会やオンライン面会は実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状況を家族に伝えるだけでなく、受診までの様子を文章や電話などで医療機関に報告している。家族とのやり取りは出来ている。	入居前のかかりつけ医の継続を基本としている。受診の際は家族同行を基本としているが、現在は訪問診療受診が5人、家族の同行受診が3人、職員の通院支援が1人となっている。医療機関には事前に心身の状況を伝えるとともに、家族や職員が通院に同行した場合は、相互に状況を連絡し合っている。また、服薬ファイルを作成し訪問診療時に活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診が出来るように訪問看護に状態変化の相談をしている。情報共有するため、報告書の作成をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の相談や状況の変化などの相談を踏まえ、こまめに連絡を取り関係作りに努めている。入退院時は医療機関に電話や書類で情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたあり方の方針やマニュアルを作成し事業所内で研修を行っている。	重度化した場合や終末期の対応について、指針やマニュアルを作成するとともに、実践に対応できる研修を行っている。入居時に家族と利用者に説明し、意向に沿って対応することとし、今年度は1人を看取っている。終末期には随時、利用者や家族に説明し意向の確認をするとともに、主治医や訪問看護ステーションの看護師と連携を取りながら、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。	

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成しているが、定期的な確認や訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の時間帯に夜間想定避難訓練は実施したが、実際に夜間帯に避難訓練は実施出来ていない。	火災を想定した避難訓練を年2回実施しており、通報訓練も行っている。町で指定している避難場所へは距離や立地条件等もあり避難が難しいと思われるので、場所の変更を要望している。地域の自治会とは、協定書を作成し災害時に協力を得られるようにしている。駐車場に夜間のセンサーライトを設置し、また、発電機、ストーブ、2週間分の非常用食品などを備えている。	引き続き、薄暮に夜間避難訓練を実際に行って課題等を把握するとともに、車椅子での避難が容易にできるよう、避難通路となる場所の舗装について検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄支援時の声掛けを意識するように職員への指導を行っている。利用者様一人一人に合わせた声掛けを行っている。耳の聞こえづらい方への配慮した声掛けが課題である。	利用者のプライドを傷つけないように心がけており、特に、排泄誘導の際や、聞こえづらい利用者には、耳元で声を掛けたりするなど、一人一人の状況に合わせた声かけを行っている。収集癖のある利用者や居室の片付けを嫌がる利用者についても、職員で状況を共有し、利用者を尊重しながら適切に対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の希望に沿うようにしながら、迷った時は、提案・助言をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、その日の過ごし方は本人の自主性を重んじている。活動や作業を本人に話をし、出来る範囲で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは出来る限り本人に行ってもらい、出来ない部分の支援を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って頂いたり、盛り付けを手伝って頂くなど、毎日関わって頂いている。担当の職員がリクエストを聞き、メニューに取り入れている。片付けも毎回職員と行っている。	献立は、利用者の要望を聞きながら職員が作成している。コロナ禍にあつて、楽しみだった外食に行く機会がなくなったこともあり、普段の食事では味わえないお弁当を作ることし、月2回、利用者も職員と一緒に食材の下拵えや盛り付けを行い、ピクニック気分を楽しんでいる。近隣住民からの差し入れや畑の野菜を使った料理が食卓に並ぶこともある。収穫祭や流しそうめん、そば打ち、焼肉、手づくりパフェ等も利用者に好評であり、笑顔で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し、体調変化の有無をチェックしている。毎月体重測定を行い変化を確認している。大きな変化が見られる時は主治医や訪問看護に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより行って頂き、不十分なところを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。自尊心を損なわないようにトイレに声掛け誘導している。	排泄チェック表を活用し、排泄習慣の把握に努め、適時にトイレに誘導して、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。常時オムツを使用している人はおらず、排泄の失敗時には、さりげなく着替えを持って来るなど、自尊心を傷つけないよう、配慮した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握を行い、毎日体操を取り入れ活動を促している。食事ではお昼に乳製品を取り入れ、毎食米飯に麦入れ、食物繊維を多く取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	手薄になる夜間は入浴はしていない。全ての利用者の希望通りにはいかないが、入浴の際にはゆっくりと入って頂いている。	入浴は、週2回を基本としているが、希望によりこれ以上入浴する利用者もいる。また、夏場の汗をかいたときなどにも、対応できる範囲で利用者の希望を取り入れるようにしている。入浴の際にはゆっくりと入ってもらえるようにし、利用者は職員との会話を楽しんでいる。また、春には地域から差し入れの菖蒲湯も楽しんでいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた就寝時間や日中の休息の支援を心掛けている。部屋の温度、寝具など個々に合わせ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用をいつでも確認できるように内服薬の説明書のファイルを用意している。変更があった場合、症状の変化などを記録し、医療との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとの行事や誕生会、作業などで役割を持ってもらいメリハリある生活を送ってもらうよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で満足に行えていないが、家族の了解や協力が得られた場合、出来るだけ自宅へ行きたい思いを叶えるよう努めている。	コロナ禍により外出する機会が少なくなっているが、事業所周辺を散歩している利用者や、野菜の苗を植えたり、収穫を手伝ったりして楽しんでいる利用者もいる。天気の良い日には、ほとんどの利用者が玄関前のベンチで日向ぼっこをし、外気に触れている。また、コロナ禍にあり外出が制限されるが、感染予防に留意しながら渋川開拓公園や葛巻高原方面にドライブに出かけたり、近隣の城跡に花見に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に持っていたいという方に関しては家族と相談し少額手元に置き、必要時支払いして頂いている。自己管理出来ない方については、お預かりし必要時購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望がある時は事業所の電話を利用して頂いている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を活けたり、装飾を利用者と一緒 に作成し飾っている。一年を通して温度や湿度の 管理には気を付けている。	天窓がある明るいホールは、エアコンや加湿器 で温度や湿度が適切に管理されている。ホール には、季節の花を生けたり、利用者と一緒にマカ ロニを使ったリース等を作って飾っている。利用 者は、テーブルの周りのソファで編み物をしたり 、テレビや新聞を見たり、カラオケしたりして、 ゆったりと好きなことをして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	ソファ、食堂のテーブルなど、本人のペースに 合わせ過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	自宅で使用していた物や、家族の写真などを飾 り、施設でも自宅の面影を取り入れ過ごして頂い ている。	ベッドとタンスが備え付けられた居室は、エアコン で温度が適温に管理された快適な空間となっ ている。利用者は、使い慣れたテレビやラジオ、椅 子等を持ち込み、家族写真を飾るなどして、居心 地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクのある方は、タンス等の位置を工夫し 安全な動線を作っている。トイレに「トイレ」と名札 を付け、場所が分かるようにしている。玄関に椅子 を置き、立位の不安定な方が安全に履物の 交換が出来るようにしている。		